
届かない

yuris

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

届かない

【Nコード】

N5536R

【作者名】

yuris

【あらすじ】

ある小学校の卒業式。私立の中学校に行くこととなった桃こと佐^{えきもも}伯桃華は、悪友である工藤辰馬^{くどうたつま}に告白しようと決意するが…。悲恋ものです。

「桃ーっ!!」

「おわっ。な、何。どしたの」

どっかーんと言いながら抱きついてきた親友を引き離す。

私より幾分背が低い彼女を引き離すのは結構容易だ。

見て、と言って卒業証書を自慢気に見せびらかす彼女に、拳を一発くれてやった。

「私だって持つてるよ」

「ウチ達、卒業するんだねえ」

「無視かコラ」

会話を交わしながら、彼女が目を向けた方を見た。

卒業式が終わり、みんなは記念撮影やら何やらやっていた。泣いている子もいれば逆に笑顔の子だっている。

「よっ。どした? ぼーっとして」

「え? あ……、辰馬」

とんとん、と私の肩を叩いてきたのは悪友の工藤辰馬だ。可愛らしい童顔にその学ランはミスマッチだ。そんな事言ったら睨まれそうなのでやめておくが。

——そういえば、と思って親友を探してみると担任の先生と写真を撮っていた。くそ、こんな時に。

「辰馬こそどうしたの?」

「あー、佐伯が私立のとこ行くなって聞いてな。柄じゃねえけど……頑張れよ」

「あ、ありがとう」

辰馬の笑顔に、後ろに隠した手紙を握りしめた。そんなの、ずるいよ。

「じゃな」

「あ……! 待っ、」

今手を伸ばさなかったら二度と辰馬には届かない気がして、伸ばした手は

空を切った。

（後書き）

駄文申し訳ないです。これが初投稿なもので…。
わがままですが、温かい目で見てくださいと嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5536r/>

届かない

2011年10月8日20時54分発行